

NO. 216

全仏

4 / 51



現代無神論者と宗教

▼若い会社員の方々に囲まれて、現代と宗教というテーマで座談会を開いた。彼等の大半は自称「無神論者」であった。それならばなぜこのような座談会を開いたのかということになるが、全く無関心というわけでもないらしい。宗教を思う動機というものは、万人に内在しているであろう。▼今の日本に多い自称無神論者は、聖書や、仏典の一冊すら開いたことのない人がほとんどであって、彼等はむしろ「思想的怠慢者」と呼ばれるべき人々だ。無神論以前の問題である。▼科学と宗教の関係を矛盾と観るならばそれでもよい。矛盾は必然的に対決する。対決力がなければ自分の思想の主体性もない。宗教者も、信仰によって一切の矛盾を克服できたと錯覚してはならぬ。対決力の貧しさが宗教的無関心の母胎だからである。

(規)

写真は世界仏教徒会議タイ大会開
会式であいさつされるブーン会長
|| 2面記事参照 ||

第11回世界仏教徒会議開く

日本開催本ざまり

タイ大会満場一致で

53年か54年にひらく

世界仏教徒連盟(WFB)創立二十五周年を記念する第十一回世界仏教徒会議は、世界三十二の加盟センターから約百五十名の正式代表、オブザーバーが参加し、二月十九日常任理事会、二十日開会

式より二十五日まで、タイ国の首都バンコクのWFB本部を会場として開催されたが、二十四日の総会の席上、議長より日本に対して「次期第十二回世界仏教徒大会を日本で開催する意志があるか」と訊ねられ、同時に満場一致で日本で開催してほしいとの要望がなされた。これに

応えて罇淵正浩代表(全仏事務総長)は「次期開催の希望国が他にないのなら、日本において開催する用意はある。しかし開催時期、大会スケジュールなどは今後充分検討せねばならない。各国代表の協力を願うものです。」と意志表明をすると、会場は万雷の拍手が鳴りやまなかった。

これにより第十二回WFB大会開催国は日本と決定したが、時期については昭和五十三年か五十四年に開催する予定と罇淵代表から公表された。

各国代表熱心に討議

タイ大会報告

第十一回世界仏教徒会議タイ大会は、タイ国バンコク市のWFB本部で一週間にわたってひらかれ、各国代表は終日熱心に討議し、数多くの議案が採決されるなど盛況裡に閉幕したが、不参加国・事務機構などの重要問題を残した。しかし

いて力強い発言・主張をするなどエネルギーな活躍をし注目をあつめた。以下はその報告である。

——日本代表団——

- 罇淵正浩 全仏事務総長
- 摩尼清之 文化専門委員
- 加藤海晃 総務局長
- 松寿弘道 国際専門委員
- 佐藤良純 〃 〃
- 鎌田良昭 〃 国際部長

△二月十八日▽バンコク空港着。WFB本部の取計らいで税関はノーチェックで通過の待遇に驚ろく。
△二月十九日▽早朝WFB本部にて登録。九時半より常任理事会へ出席。プーン会長、プラサート事務総長、S・ミヤハラ、T・T・チュ、罇淵正浩などが出席し、大会準備・運営のディスカッションを行う。午後二時より全体会議が開かれ、会長、副会長、各委員長の推薦が行われた。
△二月二十日▽WFB創立二十五周年記念祭、大会開会式が行われ、タイ首相のククリット閣下のメッセージ、プーン会長挨拶、サンヤ仏教会長(前首相)のタイ国王アミボン・アユンデューヤデト陛下のメッセージ(別掲)の代読のあと記念品の贈呈等があったが、目の色、服装なども多彩で情緒ある開会式であった。夜はタイ国立劇場においてタイ舞踊を全員で鑑賞した。

△二月二十一日▽大理石寺院参拝などのあと本部大会場で第一回目の総会があり会長、副会長が承認された。新役員は次のとおり。会長・プーン妃殿下(タイ)、副会長・大谷光暢(日本)、ダルマ・サクテイ(タイ)、S・ミヤハラ(米国)、M・グラシヨフ(西独)、クローリオン・フン(マレーシア)、ピツレ・チン・ワイ(シンガポール)、デリコフ(ソ連)、ウー・ヌーン(ビルマ)、キム・ジエ・ウオン(韓国)、ジャマソンギン・イチン・ホロー(外蒙古)、アマリタナダ(ネパール)、アルバート・エデリシン(スリランカ)
午後より各委員会が開始され、罇淵代表が財政委員長として活躍した。
△二月二十二日▽前日について各委員会があり、文化出版委員会は白熱の討議がつづいた。
△二月二十三日▽各委員会が引き続き開かれ分散して出席。午後からは大会テーマの「現代社会における仏教徒の役割」についてのパネルディスカッションが行われた。
△二月二十四日▽総会が開かれ、各委員会委員長の報告があり、満場一致で

昭和51年4月1日

ム等からの仏教徒が参加出来なかつたことである。

また、今回持筆すべきことは、米国仏教団の辻朝隆総長が出席されたことで、いろいろ国内事情があるにせよ、次期大会には是非とも政治を超越して各国を代表する、より多くの仏教団体の参加を望んでやまない。

会議は例によって議事運営方法、役員選出、祝辞の朗読、贈物交換、祝宴等の儀式やお祭り騒ぎに終始したが、その中で会議らしきものは各分科会（財政、出版、布教、人道、組織、青年）で審議した答申案の議決と「現代社会における仏教徒の役割」と題するパネルディスカッションであった。各分科会から提出された議案は時間の制約上、総会で全てすんなりと可決され、質疑応答や大会宣言をする余裕もなかつた。その議案の内容は、ほとんどが抽象的なもので、参加者自らの義務と責任を他に転嫁して懇願する形のものも多く、いつ誰がどこでどういふことをするかという具体性に欠けるきらいがあった。その最大の原因は何といつても参加者団体の組織が弱体で、人的、財的資源にとほしいことが指摘されよう。

今回の会議の議場になった世界仏教徒連盟本部の所在地はタイ国バンコクにあるが、この土地や建物はタイ国政府の財政的支援なくしては取得不可能であり、その莫大な年間維持運営費や当会議開催予算等も会長ブーン妃殿下の尽力によりそのほとんどがタイ国政府からの支出

金で賄われている。各国センターからの拠出金は極めて微々たるものであり、その少額の会費すら滞納しているところもあり、もしタイ国に政変でもあらば、連盟本部の運営にただちに支障をきたすことは火をみるよりあきらかである。今後その財政的基盤を強化する方策が真剣に討議され、早急に具体化されること望ましい。

また、各国センターや仏教徒の実態や実績が容易につかめないというきらいがある。世界仏教徒連盟は個人間のたんなる友誼機関にとどまらず、加盟団体諸国の仏教活動を補強する相互連帯機関であるとの自覚に立ち、早急に各国の実態を調査する必要がある。

パネルディスカッションは英国仏教協会のプロフェルト教授の司会によって行われ、「現代社会における仏教徒の役割」という主題はまことに時宜を得たものであったが、運営方法や内容に多少問題があり、時間切れとなつてしまったことは残念であった。貴重な時間を割いての討議なのであるから、事前からその問題提起の方法を周知徹底させ、焦点をしばつて効果的な進捗をすべきであった。

全体を通じてこの会議には色々な問題点をあとに残したが、世界各国からの仏教徒代表が仏教の名の下に集まる国際会議はこれ以外にはないことを思い合わせると、この世界仏教徒連盟の存在意義の重要性をひしひしと感じさせられる。特に次期会議をわが国で開催することになったのであるから、われわれはこれを好

機に実のある会議を主催して世界に範をたれ、国内外の仏教組織を一段と強化して、世界に誇れる仏教の宣揚に努力する責任と義務があるろう。

華やかな歓迎に驚く

両巡拝団、仏跡めぐり

全仏主催のスリランカ、ポロブドール

両巡拝団は、二月十九日出発、二十日タイ国バンコク市のW

F B本部で開かれた

第十一回世界仏教徒

会議タイ大会の開会

式に日本代表団員として全員参加し、その後バンコク市を中心とした寺院参拝

(エメラルド寺院・大理石寺院・暁の寺

・涅槃寺など)のあとそれぞれスリラン

カ、ポロブドールへとむかった。

小乗仏教訪問—スリランカ団

スリランカは仏跡の国、みどりの国と呼ばれるだけあって豊かな自然の風光に接し心洗われる。二十三日空港到着、鐘

や太鼓の華やかな歓迎に驚かされる。二十四日ポロナルフ遺跡見学、夕刻キャン

デ仏歯寺を参拝し記念品を贈呈した。二十五日市内観光の後、大菩提会を訪問し

パナテッサ会長始め文化大臣、建設大臣等と会見、仏教親善をはたす。その後団

長・事務局長は団員を代表して大統領を表敬訪問、記念品を贈呈した。夕方はホ

テルにて団員二名の誕生祝いを中心にしたヨナラパーティ。副外務大臣夫妻等の飛入り参加もあって、両国親善の大合唱は旅情を高めた。

二十七日シンガポールにて一泊し、二十七日「こうした仏教国を歴訪巡拝することは「温故知新」の言葉通りこれからの全仏運動の推進のため大きな糧とした」という気持を胸に、全員元気に帰国した。(小降令丸・記)

最大の仏教遺跡—ポロブドール団
二十三日古都ジョクジャカルタ着、世界最大の仏教遺跡ポロブドールを見学、延長六キロの壁画は精巧な仏教芸術のパノラマであった。現在国連の援助で修復中で、これからはその工事のため全体がみられなくなるといふ。二十四日はプランバナ寺院等を参拝したが、この国は回教徒が大多数で仏教徒は少ないとい

う。
二十五日は「夢と光の島」バリへ。無数のトンボが飛び、小鳥も自由に舞っている。一日をのんびりする。二十六日は音楽と踊りを鑑賞したが、これらはこの島の宗教行事と不可欠のものである

う。
二十七日は香港でショッピングを楽しむ、二十八日全員大過なく帰国したが、今回の旅行で東南アジアは貧しい中にも新しい血が吹き上げているという感じがした。

(滝 真澄・記)

第24回全日本仏教徒会議

三重大会、来月17日開く

津市の高田派専修寺で

第二十四回全日本仏教徒会議三重大会は、五月十六日(日)・十七日(月)の両日にわたって『仏教で強く正しく生きぬこう』というテーマのもと、三重県津市一身田の真宗高田派大本山専修寺において開催される。

ついでには多数仏教徒が、共に集い、共に語り、共に行じて、弱さへの迷いをはらし、全人類に仏教で強く正しく生きぬく大光明をかかげよう、一人でも多く参加され意義ある大会となるよう事務局では準備をすすめている。大会日程などは次のとおり。

◎大会日程

第一日(五月十六日)八時受付、九時半大会式典、十一時記念講演(今春聴覚低下)、十二時総会、二時部会

第二日(五月十七日)八時受付、九時総会、十時閉会式

◎議案提出方法

1 加盟各宗派、各都道府県仏教会、各種団体において討議し決定したもの一議案に限り提出することができる。

2 第一部会を討議中心の部会、第二部

会を檀信徒部会、第三部会を婦人部会とし、会議テーマにそわない議案は採用しません。

3 提出期限は四月十五日、全仏事務総局宛。

◎参加方法

- 1 資格 加盟団体の推薦する仏教徒
- 2 参加費 千五百円
- 3 締切 四月三十日
- 4 申込書に参加費を添え全仏事務局へ申込みこと

仏教徒の自覚と実践的な討議を期待する

三重県仏常務理事

高島 広勝

第二十四回全日本仏教徒会議は、三重県仏教会が担当し開催される事となりました。会場は真宗高田派本山専修寺で、巨大な七堂伽藍。青少年会館をフルに使って、み仏の恵みを真正面から受けとめながら充実した大会を持ちたいと、目下

準備に大奮となっており。

従前の大会にいろいろなテーマを掲げて、仏教徒の自覚と実践を求める適切な方策に就いて熱心な討議がなされ、それなりの成果を挙げましたが、今次大会は「仏教で強く正しく生きぬこう」というテーマを掲げての大会だけに、仏教徒の実践活動の問題を軸として、真剣な討議がおこなわれることを期待しております。

とかく仏教といえば、専門職は高遠な理想論に終始し、檀信徒は無関心……で仏教徒としての自覚が薄い。従って行動力の無い、たんなる因習墨守の団体にすぎないとおもわれがちであった。こうしたイメージを克服して生命力のある仏教を、現実の生活に根をおろした仏教として再生を計ることの緊要性を、ヒシヒシと体感する対策を見出すよう全力を傾注したいと願っております。

尚、大会終了後に参加各位の希望により伊勢神宮・二見・志摩などの観光もお楽しみいただけるよう準備いたしておりますので、全国各地よりの同志の皆様のご来駕を心よりお待ち申し上げます。

大会準備委員会開く

二月十六日、午前十一時より全仏会議室において、第二十四回全日本仏教徒会議三重大会の準備委員会が開かれた。

- (1) 大会準備の経過報告。
- (2) 大会趣旨については慎重に討議され趣意書の一部訂正があった。
- (3) 部会のテーマについて審議され次の

ように決定した。

第一部会(実践部会)「仏教的生涯計画について」

第二部会(檀信徒部会)「檀信徒会の全国的組織を強化、拡充しよう」

第三部会(婦人部会)「宗教教育における婦人の役割」

出席者(敬称略・順不同)摩尼清之、若林隆光、麻布照海、清水谷孝尚、真漢義貫、花山勝友、新聞信雄、佐伯真光、山中浩文、郡司博道、板橋有成、塩入亮達

文化会議などを討議

文化専門委員会

三月十一日午後二時より全仏会議室において、任期最後の文化専門委員会が開かれ、次の議題にそって討議された。

一、昭和五十一年度全仏事業計画

イ 文化会議

ロ 各宗派教化担当者会議

ハ 全仏誌

二、世界仏教徒会議

文化会議については「人類の未来と仏教」の第三回目であり結論をだす方向で開くよう準備をする。各宗派教化担当者会議は全仏大会の具体化のような形で、実践的な問題に取組んでいく。世界仏教徒会議については、準備委員会設置のための準備段階に入るため文化専門委員会からも人選をした。(出席者・敬称略)真漢義貫、摩尼清之、若林隆光、井上日宏、伊藤定夫、塩入亮達、島田喜久子

全仏評議員会と理事会

全議案を了承、承認

既報の通り、全日本仏教会では任期満了に伴う役員改選等のため、一月二十九日午後一時より、東京・芝のソートービル（東京グランドホテル）において評議員会・理事会を開催した。

評議員会は、評議員総数百八十六名中出席者百二十名（委任者五十七名）で開会され、議長に浅井堅教師、議事録署名委員に板橋宥成師・米山泰龍師を選出し上程された諸議案について審議した。

議案第一号「理事および監事の選出について」
選考委員会を設けてという提案を採り選考委員十一名を選出、別室にて選考委員会を開き、その報告を受け、慎重に審議の結果、二月号報告のとおり理事四十



議案を審議する全仏評議員会

四名、監事三名を選出した。

議案第二号「会長および副会長の推薦について」
理事会での決議報告をうけ承認。

議案第三号「昭和五十一年度事業計画について」
四号議案との関連上、四号議案上程の後に一括審議することです承。

議案第四号「昭和五十一年度歳入歳出予算について」
三月・四号両議案を原案通り承認。

議案第五号「世界仏教徒会議日本大会開催について」
理事会報告をふまえて審議され、基本

的には日本大会開催の用意ありという含みで本件を承認。

理事会は、理事総数四十四名中、出席者三十三名（委任者九名）で開会、議事録署名委員に清水谷孝尚師・野村宗春師を選出し議事に移った。

議案第一号「理事長および常務理事の選出について」
理事長に田辺哲摩師を指名し承認。次に常務理事の選出をはかり、互選により二十名を選出した。（既報二月号）

議案第二号「会長および副会長の推薦について」
会長 大谷光暢 真宗大谷派法主
副会長 望月日滋 日蓮宗管長

〃 高峰秀海 高野山真言宗管長

〃 花山信勝 東大名誉教授
をそれぞれ推薦、満場一致で承認。

議案第三号「昭和五十一年度事業計画について」
四号議案と一括審議することです承。

議案第四号「昭和五十一年度歳入歳出予算について」
一部訂正のほかは、両議案を一括原案通り承認。（三・四号議案は別掲参照）

議案第五号「世界仏教徒会議日本大会開催について」
大会の持ち方、時期、参加者数を含めての予算等、種々の技術的問題は、今後各種の機関で練り上げていくこととして次期大会を日本で開催する同意があるという含みで承認。

五十一年度事業計画 歳入歳出予算きままる

昭和五十一年度の事業計画ならびに歳入歳出予算は、一月二十九日の理事会・評議員会において原案通り承認された。

事業計画は別項掲載の通りほぼ前年度を踏襲しているが、特にWFB第十二回日本大会の開催については技術的な準備にかかる。また全日本仏教徒会議は五月開催のためすでに準備をすすめており、三重県仏と緊密な連絡をとって、実のある大会となるよう努力する。

歳入歳出予算については、歳入歳出とも四千五百万二千円で承認されたが、これは前年度四千二百二十五万七千円の約五〇%程度の増でしかない。

歳入の部のうち、負担金は宗派の部では基本割一か寺二百円で昨年と同じ、均等割三万円は三万三千元にアップされて総額三千六百三十七万六千元（前年より二百四万円増）県仏の部では均等割二万一千円が三千元増の二万四千元となり、

総額三百八十一万六千元。各種団体の部では基本割二万九千元は昨年と変わらず、均等割二万一千円が三千元の増で二万四千元となり総額九十四万二千円が計上されているほか寄付金、未納徴収金、基金果実、雑収入、繰越金が総計四百六十五万八千円となっている。

歳入の部は、事務総局費二千七百九十八万円、総務局費三百五十三万円、組織局費四百八十万円、国際文化局費七百十万円となっている。
増額の目立つものは借館借室費、通信費、人件費、WFB関係費で、減額のもつとも多かったのは共通事項処却費及び国際仏教交流費で、紀要作成費、諸会議費がそれに順じてダウンされている。

新年度事業計画各局の内容

△総務局▽

基本目標 本会寄付行為第五条により各種の事業遂行に必要な措置を講ずる

実施項目 (1)加盟団体との連絡提携の強化 (2)諸官庁および関係諸団体との連絡 (3)過年度(前年度を含む)採択事項の実施(担当事項)

基本目標 本会寄付行為第五条の事業目的たる仏教運動の実践および育成を主にし、時代に即応した全一仏教運動を強く推進すると共に構成団体の一層の強化と団結を期するため下記の事業を実施する

実施項目

- (1)第二十四回全日本仏教徒会議(各種代表者会議)の開催
- (2)未加盟団体の加盟促進
- (3)ブロック別各県仏教会代表者会議の開催
- (4)地方仏教運動の推進、地方仏教徒大会、講演会等へ協力
- (5)各地檀信徒会の充実と全国組織化の推進
- (6)時局対策
- (7)過年度採択事項の実施(担当事項)

△国際文化局▽

基本目標 本会の寄付行為第五条の事業目的たる世界各国のWFBセクターおよび仏教諸団体との連絡、文化交流を中核として

仏教による国際善と世界平和の実現を期する。また、仏教運動の総合的企画促進、各種仏教運動の実践育成ならびに広報活動を活発に行うことによつて全一仏教運動の促進をはかる

実施項目

- ―国際部―
- (1)WFB関係
 - (イ)本部で決議された事項の実施
 - (ロ)WFB第十二回日本大会準備、常任理事会、ユネスコ会議等への出席および代表派遣
- (2)その他必要な事項
- (3)国際仏教交流関係
 - (イ)訪日仏教徒の歓迎接待
 - (ロ)在日各国公館との連絡折衝
 - (ハ)海外における各宗派開教本部との連絡提携
- (4)在日仏教留学生と交流親善
- (5)各国の天災等に対する救援活動
- (6)遺骨収集事業へ積極的協力
- (7)その他必要な事項
- (8)渉外広報関係

―文化部―

実施項目 (1)機関紙「全仏」の発行普及

- (2)日本仏教文化会議の企画および開催
- (3)各宗派教化担当者会議開催
- (4)全一仏教聖典の普及
- (5)各種教化資料の作成と普及
- (6)仏教徒読本編集調査、花まつりポスター等
- (7)その他広報宣伝に関する事項
- (8)過年度採択事項の実施(担当事項)

- (イ)英文日本教ニュースの刊行企画
- (ロ)その他必要な事項
- (ハ)過年度採択事項の実施(担当事項)

事務総局人事

全日本仏教会事務総局では任期満了により、寄付行為第十六条に基づき、二月一日付をもって、新人事が次のように決定した。

- 事務総長 鱈淵 正浩(浄土宗)
- 事務次長 安藤 義祐(大谷派)
- 総務局長 加藤 海晃(日蓮宗)
- 組織局長 竜山 哲成(本願寺派)
- 国際文化局長 来馬 規雄(曹洞宗)
- 部長以下は従来通り。
- 退任 (二月三十一日付)
 - 事務総長 桜井 大乗(曹洞宗)
 - 総務局長 白川 良純(大谷派)
 - 国際文化局長 清胤 徹昭(本願寺派)

お寺に仏旗をかけたよう

大 たて 150C—よこ 247C ￥13,000円 小 70C—100C ￥3,000円
 中 90C— 135C ￥5,000円 手旗 35C—50C ￥1,500円

別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)

各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

〒111 東京都台東区西浅草1-5-5

電話03・843・6341~3

法輪バッチ

全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き

¥2,000円

径1cm、ネジ式
¥1,000円

